

山口情報芸術センター [YCAM] イベント

振子びじん+YCAM新作パフォーマンス

せいせいのせんせい

12月12日(金) 18:30 開演 13日(土)、14日(日)、20日(土) 10:30 開演 / 15:00 開演
12月18日(木)、19日(金) 10:30 開演 / 18:30 開演
山口情報芸術センター [YCAM] スタジオ B

人間とAIの生成は何が違うの？

パフォーマンスを通じてテクノロジーと人間の関係性の未来を考える

山口情報芸術センター [YCAM] では、ダンサーで振付家の振子びじんによる新作パフォーマンス「せいせいのせんせい」を発表します。

YCAMでは、2024年より子ども×テクノロジーをテーマとする、パフォーマンス・アーツ作品の制作を通じた人材育成プロジェクト「劇場と学校の時間」に取り組んでいます。本公演はこのプロジェクトの成果の一つとして上演するもので、振子びじんをはじめ、多分野で活躍するアーティストやクリエイターとともに制作した、子どもから大人まで楽しめる、パフォーマンス・アーツ作品を公開します。本公演は、テキスト・画像・音声・動画などの新しいコンテンツを自動的に生成する人工知能である、生成AIを題材とした観客体験型の作品です。観客は、舞台セットの教室の中で「せんせい」に扮するロボットのおこなう授業に参加し、質問に答えることで机の上の小さなロボットたちのセリフが生成されていくという作品です。今日ネットワーク技術が発達し、私たちはAIを含む数多くの先端技術に囲まれた生活を送っています。本作は、人とAIがどう付き合っていくべきか立ち止まって未来を考えるきっかけを提案します。ぜひご参加ください。



「せいせいのせんせい」メインビジュアル
イラスト: fancomi

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

地域小学校での展開や、海外公演を視野に入れたプロジェクトが始動



YCAM+ 振子びじん新作パフォーマンス「せいせいのせんせい」制作の様子
写真：谷康弘

YCAMにおける、展覧会や映画上映と並ぶ活動の柱が、ダンスや演劇などのパフォーミング・アーツ作品の上演です。開館以来、国内外の優れたパフォーミング・アーツ作品を紹介するとともに、アーティストと協働しながらメディア・テクノロジーを応用した新作の制作・発表を多数おこなってきました。本公演では、ダンサーで振付家の**振子びじん**による新作を発表します。作品タイトルにある、「**せいせい（生成）**」をキーワードに物語が展開する本作は、YCAMとジャンルを超え活動するアーティストたちのコラボレーションにより制作されたパフォーマンス作品です。教室を物語の舞台に、ロボットの「せんせい」が授業をおこなう近未来、さらには人間とAIと一緒に授業を受ける教室、IoTエンジニアとしても活動する気鋭のSF作家**斧田小夜**の原作をもとに、ダンサーで振付家の振子びじんが、構成・演出をおこないました。また、音楽家でサウンドデザイナーの**荒木優光**が本作のために制作したオリジナルサウンドが物語の世界観に色を添えます。

舞踏をルーツにもち、美術家の梅田哲也や劇作家・演出家の穴迫信一など、さまざまなアーティストとのコラボや実験的な舞台作品を発表してきた振子は、本作で初の子ども向け作品の制作に挑みます。本公演は2025年の公演以降、鑑賞教育の一環として小学校等地域の教育機関での公演や海外での巡回公演を視野に入れ、継続した活動をおこなっていきます。

演出、構成：

振子びじん(ねじ・びじん)

ダンサー・振付家、neji&co. 主宰。2004年まで舞踏家・磨赤児が主宰する「大駱駝艦」に所属する。その後自身の作品制作を始め、振付を“動かすこと”ではなく“動かされにいくこと”としてとらえ、発した声や体の動きが行ったり来たりする身体をテーマにした作品を発表している。2020年に「neji&co.」を設立し、京都を拠点に活動京都を拠点に活動。目的を持たずに動いた瞬間に消えていく身振りや、劇場という場と舞台の時間に注目しながら創作を続けている。



撮影：脇田友

え?! せんせいはAIなの? 一時間割りにない授業が始まるよ!



ロボットやAIが扮する「せんせい」のイメージ画

——せんせいが海を旅していたときの事です。星空を見上げながらおしゃべりの練習をしていると、大きな、大きな影があらわれました。影の正体は船のようでした。でも不思議なことにどこにも明かりがついていないんです。うーん… いったいなんなんでしょう? みんなはなんだとおもいますか? ——

斧田小夜 脚本:「はこにわ」より

「せいせいのせんせい」は観客が、学校の教室に見立てた作品空間でおこなわれる授業に参加し、「せんせい」に扮するロボットやAIの言葉に答えていくという体験型のパフォーマンス作品です。「せんせい」が語りかけるのは、「人間は手をあげて」といった簡単な所作を求めるものから、「人間ってなに?」といった問いまで多岐に渡ります。観客の回答を受け、AIがそこにつながる後半の物語を生成していきます。ダンサーで振付家の振子は「AIとの共存によって“わたしたち”はどのように変わるのか」という問いを起点に作品を構成し、演出に当たりました。本作は、観客と「せんせい」のぎこちなく、ときに哲学的なコミュニケーションを通して、人間とAIは、未来にどんな共生が可能か考えることの必要性を問いかけます。また公演に際し、関連イベントとして小学4年生以上を対象とした子どもと大人向けの哲学対話や、子どものための舞台鑑賞の機会をつくってきた地域の専門家や技術教育の研究者、そのほか哲学者、歌人などの識者をゲストに作品のなかで扱うテーマを多角的に捉え、考えるための対話型イベントを複数実施します。

原作:

斧田小夜 (おのだ・さよ)

作家、ソフトウェアエンジニア、写真家。2019年『飲鳩止渴』で第十回創元SF短編賞優秀賞受賞、2021年に同作でデビュー。2022年には初の単行本『ギークに銃はいらない』(破滅派)を刊行、その他多数のアンソロジーに短編を寄稿。また『だってせんたっきさんがくつしたたべちゃったんだもん』が“Insignia 2020: Best Asian Speculative Fiction”に収録されるなど、海外にも活動の幅を広げている。



サウンド:

荒木優光 (あらき・まさみつ)

アーティスト・音楽家・サウンドデザイナー。1981年山形県生まれ、京都を拠点に活動。音楽を基軸に「聴くこと」の創造性をユーモラスに探り、独自の解釈で音場空間を構築。シアターピースやインスタレーション、パフォーマンス、音源など多様な形で作品を発表。近年の上演作品に『空き地のTT』(2024)、『サウンドトラックフォーミッドナイト屯』(2021)、個展に「ダンスしないか?」(2022)など。音楽グループNEW MANUKEでも活動。



開催概要

振子びじん+YCAM新作パフォーマンス
せいせいのせんせい

2025年12月12日（金）18:30~
12月13日（土）、14日（日）、20日（土）10:30~ / 15:00~
12月18日（木）、19日（金）10:30~ / 18:30~
山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB
要チケット購入（自由席）

対象年齢：小学4年生～大人 定員：30人 / 1公演

※各回15分前開場 公演時間約50分
※チケット購入に際して、同意書にご署名をいただきます。
※当日はイベントの様子を撮影させていただきます。撮影された写真または映像はYCAMの記録または広報目的の用途として使用させていただく可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

演出：今村達紀（ダンサー、振付家）
制作協力：阿濱茂樹（山口大学教育学部教授）、堤健人（山口大学教育学部准教授）
リーガル・アドバイス：CITY LIGHTS AND LAW（水野祐、片山直）
グラフィックデザイン：伊藤ガビン、いすたえこ
イラストレーション：fancomi

主催：公益財団法人山口市文化振興財団
後援：山口市、山口市教育委員会
助成：文化芸術活動基盤強化基金（クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業）
制作協力：認定NPO法人こどもステーション山口
共同開発：YCAM InterLab
企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

関連イベント

せんせいのための哲学対話

11月9日（日）16:00～18:00
対象：山口県内の小学校・中学校で教えている先生
※教科は問いません
ゲスト：永井玲衣（哲学者）
進行：山岡大地*
会場：旧レストランスペース 定員：30名 参加無料※要申込み

もしもし子どもAI相談室

11月22日（土）13:00～14:00
対象：小学校4年生～中学生
ゲスト：阿濱茂樹（山口大学教育学部 教授）、堤健人（山口大学教育学部 准教授）
進行：大場美葵*
会場：旧レストランスペース 定員：15名 参加無料※要申込み

子ども向け舞台を見るとGOODなこと10

11月22日（土）14:30～15:30
対象：小学校4年生以上～大人 ※小学校3年生以下は保護者同伴
ゲスト：山本有希（こどもステーション山口 前理事長）
進行：竹下暁子*
会場：旧レストランスペース 定員：各30名 参加無料※要申込み
*YCAMスタッフ

■ チケット情報

発売日：10月4日（土）10:00~

チケット料金：

前売

一般 2,800円

any 会員 / 25 歳以下 / 特別割引

2,300円

中学生以下

500円

当日

一般

3,500円

中学生以下

500円

※ 特別割引：シニア（65歳以上）、障がい者手帳をお持ちの方及び同行の介助者1名が対象

※ 未就学児入場不可

※ any会員は1会員2枚まで

※ 電子チケットもご利用いただけます

※ 車椅子でご来場の方や、手話通訳や要約筆記など観覧に際してサポートをご希望の方は、公演の1ヶ月前までにご連絡ください

■ 申込方法

ウェブサイト：

下記ウェブサイトにて用意された申込フォームに必要事項を記入のうえ、お申し込みください。

www.ycam.jp

関連イベント

きく ポストトーク

「語るからだ・動くものがたり」

2025年12月13日(土) 15:00の公演終演後

会場：スタジオB ※要公演チケット

登壇：振子ぴじん(ダンサー、振付家、nej&co. 主宰)、斧田小夜(SF作家)、時里充*、竹下暁子*

「せいせいのせんせい」の物語はどうやってできたの？パフォーマンズでAIはどんな役目をしているの？アーティストたちが舞台の裏をお話します

「ことばを交わしている相手は人なのか？」

2025年12月14日(日) 15:00の公演終演後

会場：スタジオB ※要公演チケット

登壇：永井玲衣(哲学者)、堀静香(歌人、エッセイスト)、山岡大地*
いま私たちはAIとことばをやり取りする機会が増えています。
「人がつくることば」と「人以外がつくることば」が同じ世界にあることについて考えます

「そでてるAI、そでてられる人間」

2025年12月20日(土) 15:00の公演終演後

会場：スタジオB ※要公演チケット

登壇：工藤郁子(大阪大学・特任准教授)、山本ぼと(フリーライター)、山岡大地*

AIと私たちがお互いに影響し合って進化している日常を、「AIと法律」の専門家と、子育て中のライターという「働き者ラジオ」のパーソナリティが一緒に考えます

*YCAMスタッフ

※チケットをお持ちであれば、いずれのポストトークにもご参加いただけます

同時開催公演

アダム・キナー&クリストファー・ウィレス

MANUAL(マニュアル)

2026年1月24日(土)*、25日(日)*、31日(土)、
2月1日(日)、7日(土)、8日(日)10:05/ 10:20/ 10:35/ 10:50/ 11:20/ 11:35/ 11:50/ 12:05/
13:00/ 13:15/ 13:30/ 13:45/ 14:15/ 14:30/ 14:45/ 15:00/
15:30/ 15:45/ 16:00

*英語上演回あり

各日19回上演(上演時間約45分)

山口市立中央図書館 要チケット

きく・はなす

子どもと大人の哲学対話

集合場所：スタジオB前 ※要申込み/要公演チケット

対象：小学校4年生～大人

ふだん当たり前に思っていることや「なぜ？」と思うことをじっくり話し合うイベントです

哲学対話「AIを使っていいのはどこから？」

2025年12月13日(土) 11:30～12:30

哲学対話「ロボットと友だちになれる？」

2025年12月14日(日) 11:30～12:30

哲学対話「学校に行くのはなんのため？」

2025年12月20日(土) 11:30～12:30

カフェ

アフターアワーカフェ

2025年12月12日(金)、18日(木)、19日(金) 各公演終演後

集合場所：スタジオB前

対象：小学校4年生～大人

※参加無料(申込不要)、途中入退場自由

公演が終わったあとにオープンする無料のカフェ。飲み物を持って、感想や疑問を話します

同時開催展示

オロン・カット+イオナット・ズール+スティーブ・ベリック

PROJECT MRT

Natureless Solution

／太陽と土と糞くそから切り離れたテクノロジーの再考
YCAMとのコラボレーション

2025年10月11日(土)～2026年2月23日(月・祝)

10:00～19:00

山口情報芸術センター[YCAM]ホワイエ、中庭、2階ギャラリー
休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

(12月29日～1月3日)